

単元名 「自動車の生産にはげむ人々」 (第5学年 (3) 我が国の工業生産)

■本事例のポイント

1. 学習計画と評価規準を共有し、自ら学習を計画的に進め、目標達成に向けて自己調整する意識を高めた。
2. 形成的評価を積極的に活用し、子供自身が学習方法を調整したり、教師が個別に応じた指導や支援を行ったりした。

■単元の目標

我が国の自動車生産について、製造の工程、工場相互の協力関係、優れた技術などに着目して、地図帳や地球儀、各種の資料で調べ、自動車生産に関わる人々の工夫や努力を捉え、その動きを考え、表現することを通して、自動車生産に関わる人々は、消費者の需要や社会の変化に対応し、優れた製品を生産するよう様々な工夫や努力をして、工業生産を支えていることを理解するとともに、主体的に、学習問題を追究・解決し、これからの自動車生産の特色について、学んだことを基に考えようとしている。

■単元の指導計画 (9時間)

第1時 学習問題をつくる

「自動車づくりに関わる人たちは、どのような工夫や努力をしているのだろうか」

第2時 予想を基に、学習計画を立てる

第3～8時 学習計画に沿って情報収集を行う

「工場見学にて自動車生産の現地見学」

「自動車を生産する人の工夫や努力」

「自動車の部品を生産する人の工夫や努力」

「完成した自動車を届ける人の工夫や努力」

「新しい機能を生み出す人の工夫や努力」

第9時

単元の学習問題に対する自動車生産の工夫や努力をスライドにまとめる。

■本時の概要

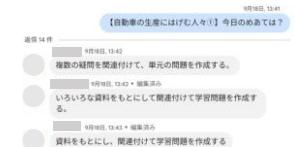
【課題】

資料から疑問点をあげて単元の学習問題を作成しよう。

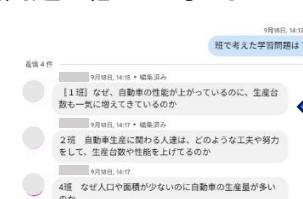
- ・ガイダンスシートを提示し学習の流れを示し、子供が見通しをもてるようにする。



- ・授業のめあてをチャットに投稿。見方・考え方を意識して課題に向えるようにする。



- ・出てきた疑問を包括できるような学習問題を班ごとに考える。



- ・出てきた疑問を整理して、調べることを確認する。



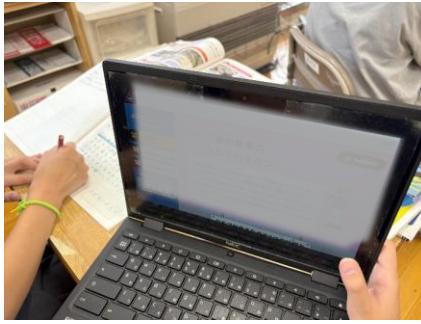
- ・子供の素朴な気付きや疑問を引き出すための資料の提示。

自動車の生産台数は日本は世界で何番目だと思いますか？

■学習調整をしている子供の姿



子供が学び方を選択・決定する場面の設定



教科書での情報収集が終わったから私は自動車メーカーのサイトを使って追加の情報を集めよう！

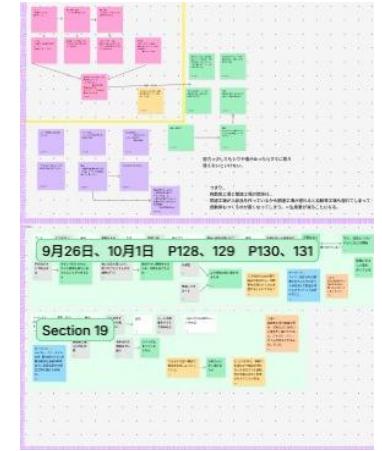


僕は自動車工場でもらった資料から情報を集めよう！評価規準のAは「粘り強く学習に向かう」だったな！

■指導と評価の工夫

①子供の活動の様子をクラウド上で共有する。

- * 教師が即時に支援や評価を行うことで、子供の学習調整を促すことができる。
- * 子供は他者参照することで自分と友達の考えをすぐに比較することができ、交流の手立てとなる。



子供と共有した評価規準

②評価規準や学習内容を子供と共有する。

- * 評価規準を共有することで子供は目標達成に向けて学びを自己調整することができる。
- * 学習内容を共有することで子供は見通しをもって学びに向かうことができる。

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的な態度
A	・自動車生産に関わる人々の工夫や努力から、日本の自動車生産について理解している。 ・調べたことを文や表などにまとめ、自動車生産についてまとめることができる。	・製造の工程、工場相互の協力関係、優れた技術などから、自動車の生産に関する人々の工夫や努力について学習したことをスライドにまとめ、発表することができる。	・学習問題について、自分に必要な学習方法を考え抜きながら粘り強く取り組んでいる。
B	・自動車生産に関わる人々の工夫や努力が分わかる。 ・日本の自動車生産の工程をまとめることができる。	・製造の工程、工場相互の協力関係、優れた技術などから、自動車の生産に関する人々の工夫や努力をそのまままとめている。	・学習問題について学習方法を選び組んで取り組んでいる。
C	・日本の自動車生産の工程を理解している。	・製造の工程、工場相互の協力関係、優れた技術など、1つのことで、自動車の生産に関する人々の工夫や努力をまとめている。	・学習問題について言わされた学習方法だけ取り組んでいる。

■成果（○）と課題（▲）

○クラウド環境を活用することで教師が一人ひとりの子供の学習の様子を見取ることができ、その都度支援や評価をすることことができた。また、その支援により学びが加速する子供の姿につながった。

▲情報収集の場面において、自分で「ずれ」に気付き深めている子供とそうでない子供がいた。教師による見取りや声かけにより個人差が生まれないようにする必要がある。